



令和3年度

# 研究紀要

秋田県立雄物川高等学校

## 巻 頭 言

校長 清水 達也

令和元年以来新型コロナウイルス感染症は世界中に猛威を振るって、私たちの健康や心理に不安を増大させている。国際政治においても、ウクライナのNATO加盟の動きに端を発するロシアの動向が液化天然ガスの供給不安を惹起させて市場経済が動揺する状況となっている。今日の社会はこれまでの経験則で推し量ることが困難な事態に直面して、なお適切な判断を迫られることが続いている。

そのような中で、令和3年6月の教育再生実行会議において「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」の提言がなされた。同会議は現在の子供の課題とこれを解決して、次代を担う人間となるためには何を身につけさせるかについて言及しているので、少し長いが以下に要約した。

…現代の子供たちの幸福度・自己肯定感や当事者意識の低さを高め、過度な横並び意識を排して一人一人の自律と社会における多様性を高め、想定外の事象と向き合い対応する、また不透明な未来を切り拓く力を涵養するためには「一人一人の多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもある」という、「ウェルビーイング（※Well-beingは「幸せ」「幸福」の意味 筆者註）」の理念の実現を目指すことが重要だ。

ここでいう「幸せ」は、経済的、精神的な豊かさや健康をも包括する。これらが実現される社会は、多様性と包摂性のある持続可能な社会である。その実現のためには一人一人が自分の身近なことから他者のことや社会の様々な問題に至るまで関心を寄せ、社会を構成する当事者として、自ら主体的に考え、責任ある行動をとることができるようになることが大切である。「ウェルビーイング」の理念にもとづき、解決に向けた取組をすすめることで様々な変化に対応しながら多様性を生かしつつ、リスクへの強靱性を高め、我が国が持つ独自の強みや特性を生かしたニューノーマル（新たな日常）を構築していけるようになる。

こうした個人を育むためには、我が国の教育を学習者主体の視点に転換することが必要だ。教師をはじめとする教育関係者が意識改革を図り、新たな学びの着実な定着、教師の質の向上と数の確保、デジタル化への対応などを総合的に進めていく必要がある。…

殊にデジタル化は社会のあらゆる面で更に加速することが予想されるだけでなく、教育に新たな可能性をもたらし、コロナ後には新たな学びの効果的な手段となるだろう。学校現場においても、遠隔・オンライン授業などのデジタル化の流れはこれからも続く。その結果、子供とその保護者にとっては、学びの機会や質がより多様で充実していくことにつながり、教師・学校にとっては、指導方法の充実のみならず働き方改革にも資すると、会議は唱えている。

教育者側の視点の転換と、デジタル化の進展は、これまで我が国の教育が内包してきた課題を解決するための手立てとなりうるものであり、これに取り組むことは教師自身にも大きく変化することが求められる時代の始まりといえよう。

これを実現するためには、まずは教師自身が「ウェルビーイング」の理念を身につけるとともに、学校をはじめとする教育組織もまた旧来からの教育をめぐる基本的な枠組みをリストラクチャーすることに本気で踏み込んでいかなければならない。今は教師にとって一番苦しい時期であるが、次の世代が成功の果実を収穫するためには、今後数年間が正念場ではないかと思う。

翻って、私たちが日々の中で進める研修も最終的には生徒の「幸せ」獲得というゴールに向かって取り組んでいるものだ。その最も端的な手立ては授業である。教えることを通し、相手に新たな学びや気づきをもたらす。今年度の教員の取組の中から見いだしていただければ幸いである。

# 令和3年度 雄物川高等学校 研究紀要

## 目次

《巻頭言》	校長 清水 達也	1
目次		2
《校内研修》		
・ 令和3年度 各教科の重点目標と取組		3
・ 令和3年度 公開授業		
国語科研究授業	国語科 阿部 牧 絵	5
数学科研究授業	数学科 鎌田 誠	9
(令和3年度義務教育課学力向上推進班学校訪問 に係る研究授業)	柴田 史 榎山 聖 陽	
・ 校内相互授業参観研修について	研 修 部	17
・ 職員研修		
「発達障害のある生徒への支援について」	研 修 部	20
《経験年次別研修》		
A講座		
・ 教職5年目経験者研修を振り返って	養護教諭 佐々木 友里亜	31
《校外研修》		
B講座		
・ これからの運動部活動の在り方	千 田 玲央奈	34
・ 各教科等の指導における言語活動の充実	菊 地 理 香	35

## 課 題

「主体的な学びに結び付く、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」

### 具体的な方策

- 1 本時のめあて（目標）やポイント、学習内容、学習の流れ、活動手順等を視覚的に提示する。
- 2 ペアやグループ学習等、生徒が自分の意見や考えを筋道を立てて発言し、互いの考えを伝え合うことで、理解を深める機会をつくる。
- 3 授業アンケートを1回目は1学期末に実施し、その課題解決に向けた取組を行う。  
2回目は2学期末に実施し、課題解決の状況を評価し、3学期から次年度の目標設定に活用する。

### ユニバーサルデザイン（UD）の視点を取り入れた授業実践

#### 1 時間の構造化

～活動の順番や所要時間、時刻の事前提示～

- ①本時の目標（ねらい）を明記する
- ②本時の流れを明記する
- ③本時のまとめを明記する（この時間に何を学習したかを確認）

#### 2 場の構造化

～整理整頓、活動や動線を考慮した教材の配置～

- ①黒板に書くのは授業の内容のみ
- ②1クラスの連絡は廊下側の黒板（ホワイトボード）へ
- ③教室内の掲示物は整理した後黒板へ
- ④物の置き場所を決める

#### 3 刺激量の調整

～光や音、室温への配慮、学習のねらいや活動に応じた教材の提示～



各教科の取組

教科	課題達成のための重点項目
国語	1 課題文における問題点や疑問点等を互いに指摘し、検討し合えるようにグループで意見交換する場面を設定する。 2 ホワイトボードや学習シートを活用し、思考の過程が分かるような支援を行う
地公	1 「本時のめあて」を授業の最初に示し、本時の流れと目標を確認する。 2 ペア・グループワークの司会、記録、発表者のローテーションを行い、他者の
数学	意見も踏まえて表現出来る力を身に付ける。 1 「本時のめあて」を授業の冒頭に板書し、口頭で流れを説明する。 2 問題の板書の前に、ペアまたはグループで解答を確認し合う時間をとる。
理科	1 「本時のめあて」を始めに確認し、黒板に明記したままにする。 2 パワーポイントを活用する。 ・スライドに、学習の内容、学習の流れ、活動手順等、今どのような活動をしているのかが分かるような工夫をする。 ・生徒の発表内容を、箇条書きで提示し、全体で共有する。必要に応じて、互いに質問し合い、説明させる。
保体	1 本時の目標及び授業の流れが明確になるような板書の工夫（色分け、数字等）をする。 2 生徒が主体的に活動内容を考え、実践できるように、個々の考えをまとめてグループへと、またその反対の流れができる学習シートを活用する。
芸術	1 本時の目標をホワイトボードに明記する。また、まとめプリントを活用し、学習内容を明示する。 2 映像資料をホワイトボードに映し、要点を解説したり、生徒に発表・記入させたりしながら、内容を確認する。
英語	1 本時の目標を始めに確認し、黒板に明記したままにする。 2 ペアワーク、グループワークを通して生徒同士が教え合うことにより、学習内容の定着を図る。 3 補助プリントで日本語と英語を対比させ、英語への理解を深める支援を行う。
家庭	1 本時の目標を明示し、学習のも見通しをもてるようにする。 2 ペアやグループで自分の考えを共有する機会をつくり、考えを深められるようにする。 3 実習では視覚的に理解できる資料を提示する。また、習熟度を考慮した小グループ学習を行い、知識・技術の定着を図る。
商業	1 本時の目標を明示し、黒板に明記したままにする。 2 ペアグループを行い、自他の考えの共有を深める。補助プリントの使用により、学習内容の定着をはかる。
情報	1 本時の学習活動を明示する。 2 ワークシートを活用して、要点を説明し合い、学習内容を確認させる。

## 国語科（現代文B）学習指導案

実施日：令和3年12月20日（月）5校時  
 クラス：3年B組 進学Ⅱコース  
 使用教科書：『精選現代文B』改訂版 三省堂  
 授業者：阿部 牧絵

### 1. 単元名

情報を収集、分析して考えを効果的に表現する。

### 2. 単元の目標

- (1) 情報を収集、分析して、考えを効果的に表現しようとしている。（関心・意欲・態度）
- (2) 情報を収集、分析して、考えを効果的に表現している。（話す・聞く能力）
- (3) グローバル化が抱える問題を理解し、正しい知識を身につけている。（知識・理解）

### 3. 単元と生徒

進学Ⅱコースは、男子7名、女子1名で構成されている。いずれも学ぶことに意欲的で、意見交換も活発に行うことができるが、時事問題を自分事と捉え、自分の考えを論拠を明示して分かりやすく伝えることは苦手である。2学期はグローバル化する高度消費社会の現実について述べられた評論2作品（『南の貧困／北の貧困』見田宗介、『虚ろなまなざし』岡真理）を取り上げた。これらの作品を踏まえて行うプレゼンテーションを通して、「グローバル化の問題点」を自分の進路と関連づけて考えさせ、論拠を明確にして自分の考えを他者に分かりやすく伝える力を養いたい。

### 4. 指導と評価の計画

- (1) 単元の評価基準

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解
情報を収集、分析して、考えを効果的に表現しようとしている。	情報を収集、分析して、考えを効果的に表現している。	グローバル化が抱える問題について理解し、正しい知識を身につけている。

- (2) 単元の指導計画

- ①自身の進路に関連する「グローバル化」について調べ、メリット・デメリットを考える  
…2時間
- ②グローバル化のメリット・デメリットを踏まえて、今後どのような行動をとるべきかを提案する。…1時間（本時）

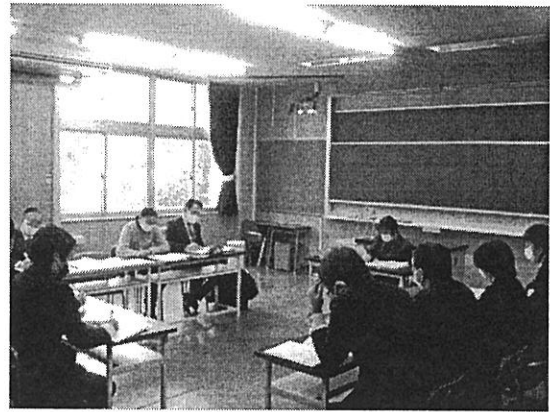
### 5. 本時の計画

- (1) ねらい グローバル化する世の中においてどのような行動をとるべきか、論拠を明示して自分の考えを述べるができる。
- (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10	・本時の目標を確認する。	・本時の目標の設定理由を説明する。	
展開 30	・クロームブックを用いて、それぞれ調べたことを発表し、解決策を提案する。 ・他の生徒の発表を、メモをとりながら聞く。	・他の生徒の発表内容を参考にさせる。 ・自分が調べた分野と、他者の調べた分野の関連性を意識させる。	自身の考えを深め、筋道立てて述べるができる (B)
まとめ 10	・本時の振り返りをする。	・自己評価シートに記入させる。	グローバル化の分野が多岐に渡ることを理解できた (E)

評価の観点：A 関心・意欲・態度 B 話す・聞く能力 C 書く能力 D 読む能力 E 知識・理解

## 国語科分科会



### 指導者紹介

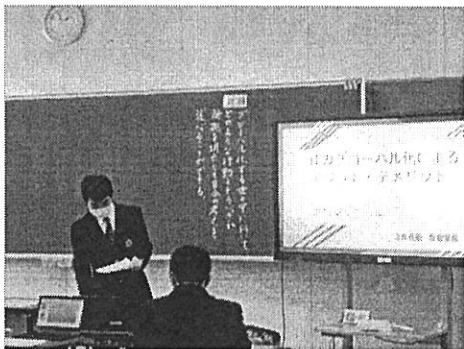
秋田県立角館高等学校 教諭 高橋 華子 教育専門官（国語）

#### （1）授業者から

考査終了後、自分の進路に関連付けてグローバル化について考える時間をとった。生徒は時事問題については関心が薄い。論拠を明確にして伝えることは苦手である。就職2名、進学4名、それぞれ自分の進路に絡めて発表してくれた。わかりやすくという点については達していない生徒もいたが、それぞれプレゼンの工夫がされており、若い力の吸収はすごいと感じた。

#### （3）参観者の感想

- ・難しいテーマである。このコースの生徒は話す力に長けていて、聞き取りやすかった。進路活動のまとめのようで面白い。発表と発表の間に他者と自分の分野をつなげるために指導者のアドバイスがありよかった。今回のテーマでどのような行動をとるかについて発表していたが、曖昧になっていたので「私が」を入れるとはっきりする



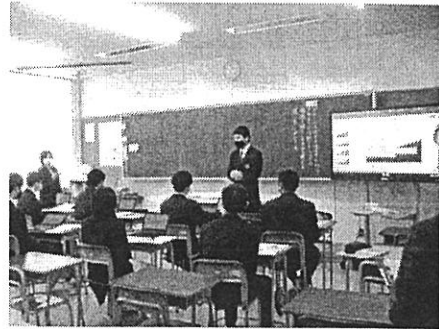
のではないかと。

- ・異文化理解が重要であるという考えが述べられていてよかった。メリット・デメリットについて考えるときに主語が「私たち」、「私」、「社会」、「企業」など幅があり、改善のために目標を設定する段階で混乱しているように感じた。グローバル化についてそれぞれ分野別に調べていたが、すべて繋がっていることに気づくことができたようだ。

- ・難しいテーマであるが、生徒はよくプレゼンしていた。やり遂げる責任感、関わろうとする責任感、堂々と発表する姿は素晴らしい。プレゼンという手法を用いることで自分の考えが可視化でき、表現の幅を広げることができていた。今回は8人の発表だ

ったが、1時間で発表者を4人に減らすことで、考えを深めることができるのではないか。

- ・自分の進路と結びつけて短い時間でまとめあげた。質疑応答の時間もあればいいのではないか。
- ・調べ学習2時間、発表1時間という短い時間でよくまとめている、クロムブックの使い方にも慣れ、内容もよく調べられたものであった。発表の態度もしっかりしていた。これまでの取組から今回の発表ができたと思う。先生のヒントで気づくこともあったようで、適切なアドバイスがあることで理解を深めていた。
- ・生物基礎の時間でもクロムブックを活用することがあるが、プレゼンまでは至っていない。3学期に取り組みたいと考えているが、本日の様子から良い取組ができそうだ。そのヒントをいただくことができた。
- ・発表時間5～6分、コメント2分程度の時間配分であった。短い期間ではあるが、自分の話したいと思っていることをうまくまとめて伝えていた。
- ・根拠をもってコンパクトにまとめるのが大変だったと思う。これが自分の意見だと際立たせることができればなお良い。
- ・発表力があり、みんな立派ですごいなと感心した。論拠を明示して自分の考えを述べる活動は中学校でも行われている。意欲的に調べ、その調べたことを自分のことに落とし発表している。メリット、デメリットについては自分のものとしてもう少し強いものがあればよかった。未消化のまま、こう思いましたと終わることもある。関連を図ることについては、他の分野との共通点が不明なので自分のものとして聞くことができない。何かひとつ共通点を示せば、関連付けることができたのではないか。



生徒の挨拶が良い。生徒と先生の関係が密で良い学校だと感じている。

## (2) 指導助言

授業を参観する機会を頂き、ありがとうございました。生徒は堂々としていて、はきはきとプレゼンができていた。実体験と結びついていて、日頃の指導が成果に結びついた。

良かった点

- ①計画の段階でどういう力をつけさせたいかはっきりしている。
- ②テスト前の内容と関連づけて計画している。
- ③ICTの活用

情報を収集、分析して「資料にまとめて」可視化し、生徒はよくまとめていた。ねらいにある「論拠を明示して」に関連しては論拠がはっきりしない生徒もいた。

## 課題

- ①「グローバル化」についての知識理解は地理歴史分野なので、国語の目標設定では適切な語句を使えているか等に絞る。
- ②本時の目標にある「論拠を明示して」を生徒に意識させる。メモ欄に「論拠が明示されているかどうか」の欄を設けるなどの工夫が考えられる。
- ③どういう生徒を育成したいかを意識した指導案にする。  
今の生徒の実態を考え、できていないことをできるようにするためにこの教材を使うといった目的をはっきりさせる。  
今回は「論拠を明示して」の目標があるので、評価もこの点に絞ることができる。

## (3) 質疑応答

- ・指導案の「1 単元名」は教材名ではなく国語では「何を身につけさせるか」を単元名とする。

## 数学 I 特定授業 学習指導案

授業者 鎌田 誠  
 日時 令和3年12月20日(月) 5校時  
 場所 1年A組教室  
 クラス 1年A組(17名)  
 教科書 改訂版新高校の数学 I

- 1 単元名  
第5章 データの分析
- 2 単元目標
  - ・度数分布表やヒストグラム、代表値など、統計の基本について理解を図る。
  - ・四分位数や分散、標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、考察することができるようにする。
  - ・散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握することができるようにする。
- 3 生徒の実態  
男子12名、女子5名、計17名の少人数均等クラスである。授業態度は良好であるが、数学が比較的得意な生徒から全く苦手な生徒まで幅広く在籍しており、授業の焦点を合わせるのに苦労している。繰り返し演習をすることで、知識・理解を身に付けさせるようにしている。
- 4 単元計画
  1. データの整理…………… 1時間
  2. データの代表値…………… 4時間
  3. データの散らばり…………… 4時間 (本時4/4)
  4. データの相関…………… 2時間
- 5 単元の評価基準

関心・意欲・態度(A)	数学的な見方や考え方(B)	数学的な技能(C)	知識・理解(D)
データの散らばり及びデータの相関に関心をもつとともに、統計的な考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	事象をデータを用いて考察し、その傾向などを的確に把握することができる。	事象をデータを用いて表現・処理する仕方やデータの傾向を把握する方法などの技能を身に付けている。	データの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

- 6 本時のねらい
  - ① 表を用いた分散の計算ができるようにする。(C)
  - ② スプレッドシートを用いて分散の数値を出し、比較検討できるようにする。(B)

### 7 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 20分	分散の小テストを解く 答え合わせをする	本時の目標を書く 「分散を用いて比較する」  分散の基本事項を確認する	(C)
展開 20分	高校駅伝の記録を2つ選択し、読み手と打ち手に分けて入力する  2つの大会のデータを分散の数値を用いて比較する	手順をしっかりとつかませる 分散を、表を用いて計算していることを認識させる  分散を用いて、2つのデータを比較させ、データの傾向を理解させる。	(B)
まとめ 10分	データを比較した結果を発表する	数値を用いて、比較の説明が的確にできているか	(B)



# 数学 I 特定授業 学習指導案

授業者 柴田 史  
 日時 令和3年12月20日(月) 5校時  
 場所 学習室1-1  
 クラス 1年A組・B組(18名)  
 教科書 改訂版新高校の数学I

- 1 単元名  
第5章 データの分析 課題学習
- 2 単元目標
  - ・度数分布表やヒストグラム、代表値など、統計の基本について理解を図る。
  - ・四分位数や分散、標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、考察することができるようにする。
  - ・散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握することができるようにする。
- 3 生徒の実態  
A組9名、B組9名、計18名の少人数均等クラスである。小学校算数から苦手意識をもち続けている生徒が複数見られるものの、授業に対する取り組みは皆真面目である。そこで、本単元では、できるだけ身近な事象を扱い、生徒に興味・関心を持たせて、数学のよさやおもしろさが伝わるように指導を工夫していきたい。
- 4 単元計画
  1. データの整理 …………… 1時間
  2. データの代表値 …………… 4時間
  3. データの散らばり …………… 3時間
  4. データの相関 …………… 2時間
  5. 課題学習 …………… 1時間 (本時1/1)
- 5 単元の評価基準

関心・意欲・態度(A)	数学的な見方や考え方(B)	数学的な技能(C)	知識・理解(D)
データの散らばり及びデータの相関に関心をもつとともに、統計的な考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	事象をデータを用いて考察し、その傾向などを的確に把握することができる。	事象をデータを用いて表現・処理する仕方やデータの傾向を把握する方法などの技能を身に付けている。	データの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

- 6 本時のねらい
  - ① ゲームに積極的に取り組もうとする。(A)
  - ② 箱ひげ図をもとに、データの散らばり具合を比較する。(B)
- 7 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 8分	確率の求め方を確認する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             本時の目標：ゲームの結果を「箱ひげ図」で表し、それを利用し複数のデータの散らばり具合を比較することができる。           </div> ゲームのルールの説明をする。	1回実演しルールを理解させる。	
展開 37分	ゲームに取り組む。(18分) 箱ひげ図を作成する。(6分) 各グループで話しあい。(7分) 代表者が話しあいの内容を発表する。(6分)	挑戦者・記録係・立会人のすべての役割をローテーションさせる。	(A)  (B)
まとめ 5分	「箱ひげ図」を用いて複数のデータの散らばり具合を比較することの良さを自分の言葉でまとめる。	数学的な用語にこだわることなく、自分の言葉でまとめることを重視する。	

ゲーム：ストップウォッチの画面を見ずに計測し、10秒ジャストを目指す。

## 数学 I 特定授業 学習指導案

授業者 糸山 聖陽

日 時 令和3年12月20日(月) 5校時

場 所 1年B組教室

クラス 1年B組(18名)

教科書 改訂版新高校の数学 I

1 単元名

第5章 データの分析

2 単元目標

- ・度数分布表やヒストグラム、代表値など、統計の基本について理解を図る。
- ・四分位数や分散、標準偏差などの意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、考察することができるようにする。
- ・散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて2つのデータの相関を把握することができるようにする。

3 生徒の実態

男子13名、女子5名、計18名の少人数均等クラスである。授業態度は良好であるが、数学が比較的得意な生徒から全く苦手な生徒まで幅広く在籍しており、授業の焦点を合わせるのに苦労している。繰り返し演習をすることで、知識・理解を身に付けさせるようにしている。

4 単元計画

1. データの整理…………… 1時間
2. データの代表値…………… 4時間
3. データの散らばり…………… 4時間 (本時4/4)
4. データの相関…………… 2時間

5 単元の評価基準

関心・意欲・態度(A)	数学的な見方や考え方(B)	数学的な技能(C)	知識・理解(D)
データの散らばり及びデータの相関に関心をもつとともに、統計的な考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	事象をデータを用いて考察し、その傾向などを的確に把握することができる。	事象をデータを用いて表現・処理する仕方やデータの傾向を把握する方法などの技能を身に付けている。	データの分析における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。

6 本時のねらい

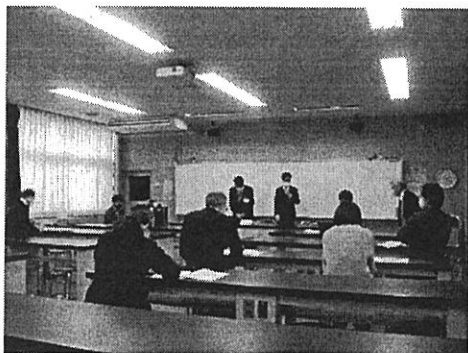
- ①標準偏差が何を表す値なのかを理解する。(D)
- ②偏差値からデータの比較をすることができる。(B)



7 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<p>標準偏差の求め方について復習する。</p> <p>学習課題を確認する。</p> <p>学習課題：標準偏差がどのように扱われているかを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均値の求め方と似ていることから、平均値に関連した代表値であることを説明する。</li> <li>・机の上が煩雑になるため、ノートは用いない。</li> </ul>	
展開 40分	<p>ある2つのテストの点数に関するデータの標準偏差を求め、データを比較する。</p> <p>比較して分かった結果を全体で共有する。</p> <p>偏差値について学習する。</p> <p>100点満点を取ったときに、どんなデータであれば偏差値が高くなるのかを考える。</p> <p>グループでまとめたデータを発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を配付する。</li> <li>・計算で chromebook を使用させる。</li> <li>・データにばらつきがある、ないということだけでなくテストの難易度にも着目させる。</li> <li>・標準偏差の差分がどのような意味を持つのか説明する。</li> <li>・データの個数や各点数などは制限しないで自由にデータを作成させる。</li> <li>・残り時間を見て、ペアワークとグループ学習を行わせる。</li> <li>・スプレッドシートを共有し、平均値と標準偏差も分かるようにデータをまとめさせる。</li> </ul>	<p>発表、ノート（机間指導）(①)</p> <p>スプレッドシート(②)</p>
まとめ 5分	<p>標準偏差の値から分かることをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四分位範囲との違いを考えさせる。</li> </ul>	

## 数学科分科会



### 指導者紹介

義務教育課学力向上推進班 岡本 和範 指導主事

義務教育課学力向上推進班 矢吹 敦 指導主事

#### (1) 授業者から

柴田：生徒が楽しく数学に取り組むことができるよう工夫した。

箱ひげ図を描き、自分で計測した45個のデータに対し、クロームブックを使用することで計算させるような内容にした。どの生徒も一生懸命楽しそうに授業に取り組んでいた。グループで話しあう姿も見られた。

鎌田：全国高校女子駅伝のデータを用いて分散を求める授業にした。

クロームブックが繋がらずに終わり、円滑には進められなかったがデータを事前準備していたので授業自体は進めることができた。

靱山：これまでの授業で生徒の反応がよくなかった標準偏差を扱った。

生徒にとって馴染みにくい標準偏差を、日常で良く用いられる偏差値と絡めて授業を進めた。マシントラブルもあったが、スプレッドシートの使い方や基本操作などを事前に扱わなかったことで作業効率が悪くなってしまった。うまく進められなかったが、生徒の頑張りに救われる形となった。



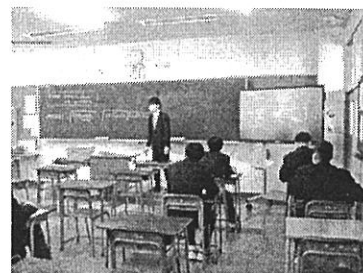
◎テーマである『分かる授業・できる授業』及び『思考力・判断力・表現力等の育成を図る授業』を実現する」ための工夫点について

柴田：箱ひげ図を描いて複数の結果を視覚的に比較するようにした。

→計測した値にばらつきが出ず、結果的には視覚的に分かりにくい箱ひげ図になったので数値で比較した。

鎌田：分散は表を使うと解けるようになるので、表を理解させながらデータを比較させることで思考判断を図った。

初山：馴染みにくい代表値を、馴染みやすい代表値と絡めることで分かる授業を展開させようとした。生徒はよく理解してくれていた。



### (3) 参観者の感想

・コンピュータをどこで扱うか、どのように使うかに着目したところ、利点が活かされていると感じた。ただ、手で描くのではなくパソコンでデータ入力させることで視覚的な教材にもなっていた。ゲームのような形（時間を10秒はかる）で楽しんだものがしっかり授業に結びついている。また、適切な発問により進みが良かったので参考になった。

・生徒を理解した班編成がよいため全員が参加できていた。普段活発に活動していない生徒もよく会話している姿が印象的だった。

・情報主任として言わせていただくと、システムエラーが残念だった。ICTがうまく動かなくても別の形で回避できる手立ても考えなかえればならないと感じた。手段としてただ用いるのではない、ICTが文房具のように使えるようなチャレンジを今後も見たい。ICTでの見える化ができていて良かった。

・数学が得意ではない目線から、わからない人たちにもわかりやすい授業になっていると感じた。生徒たちの数学の授業の雰囲気を見させてもらい、生き生きと取り組んでいて良かった。私が知っている生徒達の違う面を見られて興味深かった。苦手な子達でも、下を向いたり止まったりすることのなく授業に取り組んでいた。

・偏差値やゲーム、駅伝を用いて生徒が興味を持って取り組める内容になっていた。

最初から用意されてあるデータを分析するのではなく、自分達その場で発信したデータを用いることで興味を持ちやすい。

データを正しく読み取る分析する力の重要性を認識させ、そういった力を養えるいい授業だった。箱ひげ図の特徴は視覚的にわかることだが、イメージだけでなく数値を見て分析することで、数字を丁寧に捉えることの重要性も実感できた。

ICTに関して操作の仕方に時間がかかることがあるので、教科担任の方が負担になっている、何か改善の手立てがあれば良いと思った。

・マシントラブルから突入したが、生徒がトラブルを回避しながら一生懸命取り組んでいた。中学校にもタブレットが導入されているが、電波の強弱があれども繋がらないことが長

引くことはあまりない。

できなかったときの代案としてICTを部分的に使用したり、電卓や黒板へ切り替えたりすることを事前に考えておけば進められるようになる。

・高校の授業によく見られるような、説明型の授業かなと思っていたが見ていて楽しい授業であった。高校駅伝という身近なものを取り入れたり、ゲームや自分でデータを作ったりしていたのが良かった。子ども達同士で話し合いする時間とそれを共有する時間を設けられれば尚良かった。

#### (4) 指導助言

##### 岡本主事

義務教育課学力推進班学校訪問として今年度2回目の訪問である。今年度の訪問が雄物川高校とした経緯は、昨年度に男鹿海洋高校訪問をしたところ、「中学校の先生がいうに中学時に数学のできなかった子が高校で活躍できている。」という状況を見させていただいた。今年度もこのような子ども達をしっかりと育てている高校を見せたいと思い雄物川高校を選ばせていただいた。実施が終業式の前日12月20日ということで次時につながらない授業の実施となり本日の準備に感謝申し上げたい。

・本単元の「データの分析」はICTとの親和性が高いと感じている。

図形とともに代表値がどのようなつくりであるのかを理解できる。データを比較するとき、手計算よりもICTを用いることで効率上がる。しかし、準備が必要で情報活用能力が必要であり、マシントラブルにも見舞われることもある。挑戦したことが大事であるので、今後もICTを利用し、生徒の情報活用能力を育ててほしい。

生徒たちの活動を通した生のデータを扱っていた。

必死になって出した値を用いてモチベーションを高めさせるのは大事。しかし、真面目に取り組むと差が出にくいのも難点である。括弧の二乗の意味、ルートを用いる意味といった、式の内容の説明が丁寧になされていた。「偏差値が50になるのはどういう時か」「平均点と同じ」のような式の意味の使い方を説明することも大事。

##### 矢吹主事

・子ども達の姿や学校の雰囲気にも感動しました。掲示物ひとつでもしっかり整っており、生徒もしっかりと挨拶をしてくれ、基本的な生活習慣の指導が行き届いている。地域の蕎麦屋の「なおこそば」の店主さんが先生方の名前を把握している姿を見て、地域に開かれた学校が実現できていると感じた。

##### 4時間目の授業で感動した点

・鎌田

基本的には問題演習だけでなく、説明させる授業になっていた。

よりわかりやすい説明をさせることで思考力を育成できていた。

・柴田

動画を見せていろいろなスポーツで回転と角度と関連を用いて感心させる授業になっていた。身近なもの絡めるはたらきかけは大事だと改めて感じた。

・靱山

問題演習で間違った答えをしている生徒がいた。それを取り上げて、誤答から修正するための溝を埋められていた。

次年度から新学習指導要領改定され、趣旨が「主体的・対話的で深い学び」を目指すこととなる。

今回の研究授業では「対話的」という場面のみが足りていなかった。何のために対話するのかということと自分の考えを確かにするためであり、コミュニケーション能力を育成するためである。また、誰かに自分の考えを伝えることで自己有用感を育成するためである。

グループを行うことによって対話が生まれていた場面があったが、対話とはそれだけではない。

数学が得意な子ばかりが話してしまうことも多い。

普段の授業でも、教員の問いかけに生徒の対応し、発言できなかった子がいた時に生徒同士で話し合いをさせることで、どこに躓いているのか判断することができる。

柴田先生が作ったプリントが素晴らしい。「その他気づいたこと」欄を書くことができる力を育成したい。自分で気づいたことを見出す力が学力調査から足りていないことがわかっている。違う視点から見られる子を育成するために、何でもでもいいから書いていくことを奨めさせたい。

## 令和3年度 校内相互授業参観研修について

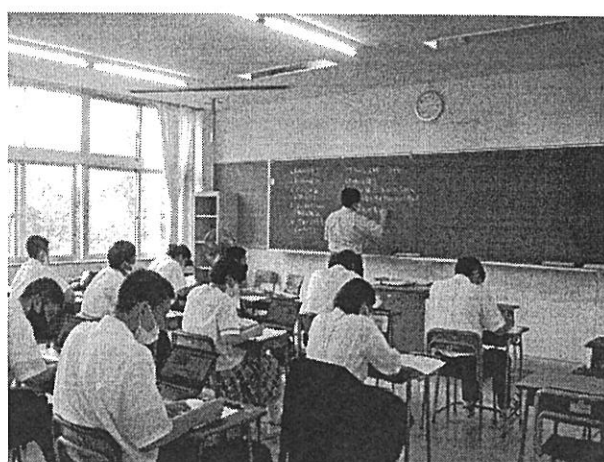
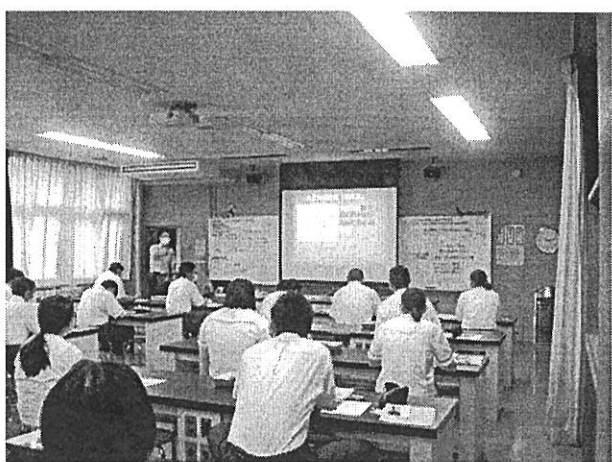
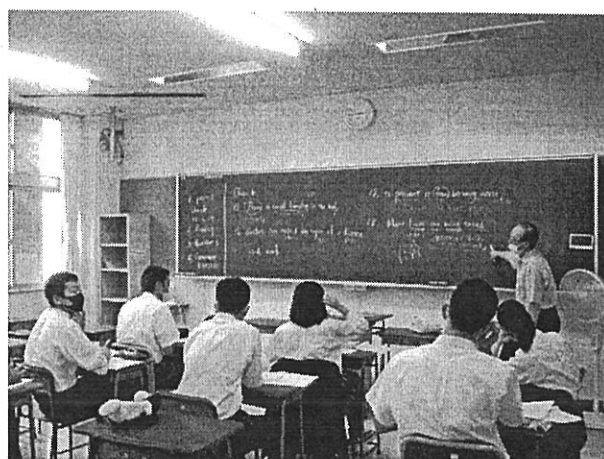
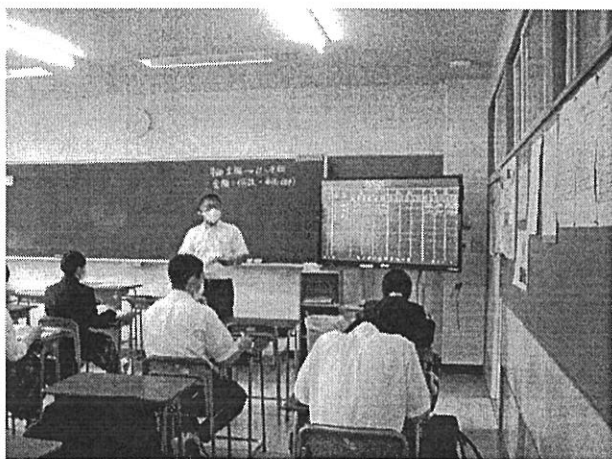
研修部

1 目的 教員が相互に授業を参観することにより、自らの課題の改善の手立てを考える機会とし、生徒の学力向上に活かす。主体的な学びを目指し、本時のめあてやポイント、学習内容、学習の流れ等を視覚的に提示したユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開を工夫する。

2 期日 令和3年9月16日(木)、17日(金)

### 3 方法

- (1) 全職員がこの両日のうち一時間の授業を公開し、一時間以上を参観する。  
参観したい授業の希望をとります。別紙の希望表を記入して提出してください。
- (2) 時間がないときは、導入、展開、まとめのいずれかの部分参観でも可とする。
- (3) 参観者は、参観シートに記入する。参観シートは印刷したものを授業者へ、研修部へファイルを提出(保存)する。





令和3年度 校内相互授業参観研修 感想集計

〈国語〉

No.	学年	良かった点	改善した方がよいと思う点
1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の話や説明のスピード、間合いが絶妙で、内容がわかりやすかった。</li> <li>・色チョークを使って誰の台詞なのかを分けていて理解しやすかった。</li> <li>・ノートの取り方が統一されていて指示が通りやすい。</li> <li>・ふたり一組での音読。</li> <li>・本時の目標をはじめとする重要基本事項が整理されて板書されている。</li> <li>・生徒の様子、表情などを観察しながら、発問や指示を明確に行っている。</li> <li>・板書、考える時間、ペア学習など生徒の集中できる場面的に演出している。</li> <li>・思考を深めさせるための「伏線」と「回収」が仕掛けられており、減り張りがある。</li> <li>・登場人物の台詞(「」部分)を色分けしていた</li> <li>・「何にも知らない」を人物ごとに色分けさせていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器の導入も検討してみても良いのではないかと</li> </ul>
2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩などの指導では作者の気持ちを考えさせ、理解させるためには、どうしても私の場合は説明が多くなってしまいがちですが、穴埋めなどの工夫もあって生徒にしっかり考えさせている点が素晴らしく勉強になりました。正解を教えるのではなく、クロムブックを使い、自分で答えを見つけさせるところも参考になりました。</li> <li>・少人数で授業を展開する上でのメリットは全員の考えが聞きやすいことだと思いますが、しっかり生かされたものになっていたと思います。ありがとうございました。</li> </ul>	特にありません。

〈地歴・公民〉

No.	学年	良かった点	改善した方がよいと思う点
1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図から読み取る歴史(風刺)がおもしろかった。当時の背景を図から生徒に考えさせるのは、知的好奇心を刺激するものだと思います。</li> <li>・生徒が使用しているノートが方眼目地で大きく書きやすいと思いました。</li> <li>・ノートをとる時間や考える時間が十分あり、時間配分の取り方が参考になりました。</li> </ul>	特にありません。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただのスライドではなく、アニメーションが盛り込まれていた点</li> <li>・ICTの情報の速さ対策で、要点をまとめたプリントが用意されていた点</li> <li>・黒板と電子黒板、プリントとChrome bookの共存がなされていた点</li> <li>・まとめ方(調べ学習)を電子黒板で写し、プリントに要点をまとめることで時短+聞くことの集中が可能</li> <li>・役割分担をさせたグループワークがなされていた点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTは情報量が多く、速く動きやすいので一問一答の板書で追いついていない生徒が見られた</li> </ul>
3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚的に生徒の興味関心を促すものであった。イスラム発明10選のテーマ自体が興味深かった。</li> <li>・話のスピードも生徒の思考のスピードにちょうどよく、生徒の方も指示に従って、資料集を確認していた様子が印象的でした。本時の予定が細かく書かれていてわかりやすかった。</li> <li>・前時の確認として生徒に簡単な質問をし生徒が前時の復習をしやすくと感じた。Chromebookを用いて生徒が自分で調べ、ノートに書いていくという方法で生徒も覚えやすかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Chromebookの立ち上げが遅い子などいる可能性がある。この時間がどうしても勿体ないと思った。事前に立ち上げて等の準備があればもっとスムーズになるのではないかと考えた。</li> </ul>

〈数学〉

No.	学年	良かった点	改善した方がよいと思う点
1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を掲示し、授業の始めに本時の視点を説明した。</li> <li>・生徒とのコミュニケーションがよく取れていた。</li> <li>・電子黒板、Jamboardを使っていた。電子黒板を活用して、視覚的にわかりやすい授業だった。</li> <li>・本時の目標に添った授業展開になっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切り取った図形で、算出の式を視覚的に、動的に見せられればよいと思った。</li> <li>・黒板、電子黒板、クロムブック、テキスト、ノートと、使用する教材が多いので、それぞれの特性や利点を活かした授業展開を工夫してほしい。(クロムブックの利便性、暇をもてあます生徒の割合が多いようだったので、活用する教材の精選や、生徒が実際行う活動内容を増やす等の見直しが必要だと思った。)</li> </ul>

〈理科〉

No.	学年	良かった点	改善した方がよいと思う点
1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実物を見て理解が促される教科の特性から、カラーの図解や動画は有効であると思った。</li> <li>・デジタル教科書(?)を利用することで、テンポが良く進度も効率よく、生徒への発問や学習内容を進めるのだと思いました。</li> <li>・テーマと図解をプロジェクターで示して、ポイントを黒板を使用する使い分けが参考になりました。</li> </ul>	特にありません。

〈外国語〉

No.	学年	良かった点	改善した方がよいと思う点
1	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の雰囲気良く、わからないことも質問しやすく授業に参加しやすい様子が生徒の発言が活発なところから見てとれました。</li> <li>・生徒を励ましながら、英語が苦手な生徒の意欲を引き出すところが参考になりました。</li> <li>・チョークの使い分けがわかりやすい点も参考になりました。</li> </ul>	特にありません。
2	1	<p>授業参観を通して、生徒の学力の低さを改めて感じました。日本語ですら理解できない人たちに、英語を理解させるのは至難の業だと思います。答えを引き出すために、ダジャレを駆使する先生の姿には、笑いを通り越して感動を覚えました。</p>	特にありません。

〈家庭〉

No.	学年	良かった点	改善した方がよいと思う点
1	1	<p>日常生活で役立つ内容を扱っており、家庭という教科の重要性を改めて感じました。一部、化学と関連する内容もあり、いつか、ITでコラボ授業ができればと思いました。</p>	特にありません。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードに書かれてある指示が分かりやすい。</li> <li>・生徒を万遍なく見回っており、一人一人に丁寧な指導をされている。</li> <li>・丁寧且つ優しい指導で、生徒達が先生へ質問や発言をしやすい雰囲気づくりがなされている。</li> <li>・時計をわざと進めさせる等、生徒達が調理に集中できる環境が整えられている。</li> </ul>	特にありません。

〈商業〉

No.	学年	良かった点	改善した方がよいと思う点
1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の利用が参考になりました。細部に記入しやすく文字や数値がつぶれにくく、カラーが多色で視覚的にわかりやいと思いました。</li> <li>・電子黒板と黒板の使い分けが明確でポイントがわかりやすいと思いました。</li> <li>・導入時のポイントの確認が丁寧に発言している生徒だけでなく全体にしみわたっている。</li> </ul>	特にありません。



## 発達障害のある生徒への支援について

期 日 令和3年7月21日  
講 師 秋田県発達障害者支援センター  
ふきのとう 秋田  
相 談 員 (社会福祉士／精神保健保健士) 石橋 知子

発達障害の原因は脳への血流の特殊な伝達物質の問題です。

「聞こえ方」の特性として、何でも一律に聞こえ、「聞く」ことによりかなり体力を使うこともあります。「触覚」の特性としては、触れられたことが強い痛みを感じたり逆に痛みが鈍感で重傷になった状態でもわかることもあります。「見え方」の特性としては、文章中の一部が歪んで見える識字障害、文字全体が滲んで見える障害があります。

ASDは、相手が自分と違う感覚であることがわからず、強い拘りがあります。全体よりもフォーカスすることが得意で、一つのことを極める特異的な特徴があります。記憶力が特段に優れていますが、同じ行動に安心感を覚えますが急な変化は苦手とします。この例として、ある時、医療療育センターのソファが緑色から茶色になったことを見た相談者が「ワッ」と声をあげたのですが、「緑色のソファが茶色になったのね。」と母親が優しく声をかけて適切に対応している様子が見えました。「こんな所でうるさくしてはダメよ。」とは言いませんでした。変わらない事への安心感が強い特性を理解しての母親の対応として感心しました。

ADHDは不注意で散漫で、多動性と衝動性が特徴です。強みとしては「よく気が利く」ことで、弱みとしては「結果を考えない」ことです。しかし、これを強みとして見れば「行動力がある」ということになります。

SLDは知的な遅れはないが、一部の学習能力が育ちにくいです。アプローチとして強みが苦手をカバーできないか、弱みを直すよりは社会に適応することを目標に工夫や配慮をすることです。自閉症スペクトラム症の特徴がある人たちは配慮が必要ですが、信州大学の本田秀夫氏によるとこのような特徴のある人たちは10人に1人はいるということです。よって、周りの方が適切な関わりをすることが大切です。「障害は個人の中にあるのではなく、社会環境や全体でアプローチしていくもの」です。本人の強みなどプラス面を把握し、障害のあるなしに関係なく、本人の気持ちを上げながら支援していくことです。

女子の場合、「大人しい子」として見過ごされて、思春期になり、周囲とのコミュニケーションがより複雑化する状況になって発達障害に気付かれることがあります。

発達障害のあるなしに関係なくどの子にもプラスになる方法は三つあります。

一つ目は「目で見て確認できるようにする」ことで、これは大切です。スケジュールで見通しが立つことで安心して取り組めるようになります。

二つ目としては、「ポイントを示す」ことです。あいまいにせず、「具体的に簡潔

伝える」ことが大切です。

三つ目は「環境を調整する」ことです。人間関係を作ることが苦手な場合、できることから始めていくことです。興味・関心が同じ小グループから始め、次のステップとしてもう少し大きなグループで、というように次へつなげていきます。そして「状況が理解できるようサポート」します。相談すること自体が難しい場合がありますので、こちらから話を聞く日時を決めて、機会を設けて「ここは～だから、～した方がいいよ。」と状況を教えてあげることです。

注意欠如多動症の基本的な支援は、感情的に叱らず、理由をひとつひとつ説明することが重要になります。スモールステップの考え方は重要ですが、手順がたくさんあるとゴールが見えずやれないことがあります。最初は10あるうち、8までやってあげて、9、10と取り組ませます。次は6、7、8、9、10と少し前からやる。最終的には1、2、3、・・・10と最後まで自分でできるようにすることです。

提出日を守れないことがあります、「提出できない」という結果は同じでも、提出しようとしたが「提出用の紙がない」だとか、提出しようと思っていたが、「怒られる心情がわかるので嘘をつく。」といったようなことがあります。支援としては、思い出して行動できるようにしていくことです。携帯電話のアラーム機能や提出日を掲示して気付かせるようすることです。また、できたことは、すぐに褒めることが大切です。予定通りにできたり、守ったりする経験を積ませることで自己管理できるようになるからです。経験を積ませることで社会の枠組みを意識した行動につながっていきます。

限局性学習症の基本姿勢は、「怠けている」と決めつけないことです。苦手パターンを知り、それを克服することためにICTの活用などが考えられます。

発達障害の診断は支援のツールです。診断により合理的配慮を求め、できることを増やすためのツールとなります。個人の発達特性に周囲が上手く関わっていくことができれば支援はいりません。診断は周囲に理解してもらうための手助けになります。

ツールとしての便利グッズは以下のようなものがある。

「カラーボールペ」・・・人によって見やすい色に対応

「紛失防止タグ」・・・携帯電話の位置情報で教えてくれる

「タイムロッキングコンテナ」・・・一定時間ロックがかかるコンテナ

「デジタル耳栓」・・・雑音が消えて人の声だけがクリアに聞こえる耳栓

医療機関を受診する場合は、第一に本人の同意が必要となります。母子手帳や通知表など現在までの経過がわかるような生育状況をまとめて伝えます。また、どの年代でどのような困難さがあったかなどの情報を家族や関係機関がある場合、この情報提供も合わせると総合的な診断がつきやすくなります。

障害者手帳は、本人の状況によります。交付には半年から8ヶ月ほど時間がかかるので、就職の際などで利用する場合は更新手続き期間を踏まえて考えてください。

就労支援として若者の支援は、たとえ障害があったとしても家族・本人がその必要を求めない場合は若者サポートステーションでの支援が考えられます。一般の高校卒

で就職したけれども辞めてしまった場合の支援は横手市にもある若者サポートステーションで支援できます。不登校気味な人も検討できます。

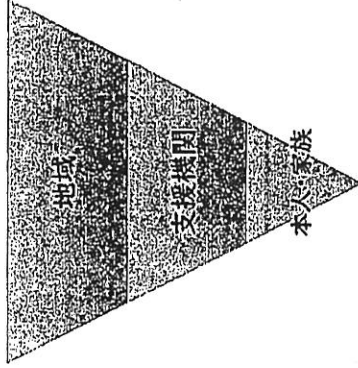
学校側で発達障害支援センターに相談した方がよいのではないかと考えているけれども、本人・家族はその必要性を考えていない場合は、在学中は特別支援隊や、スクールカウンセラーなど学校で相談が可能な機能を活用することも検討してください。

令和3年7月21日 令和3年度 秋田県立雄物川高等学校職員研修会

## 発達障害のある生徒への支援について

秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田  
相談員(社会福祉士/精神保健福祉士) 石橋 知子

## 秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田の役割



普及啓発・研修事業  
連絡協議会の運営

連携、コンサルテーション  
各種会議への参加、情報交換

本人・家族等への相談支援

## 秋田県発達障害者支援センターふきのとう秋田

【運営主体】 地方独立行政法人秋田県立療育機構  
秋田県立医療療育センター

【設置】 平成19年10月1日（秋田県より委託）

【主な内容】 発達障害に関する相談支援や普及啓発など

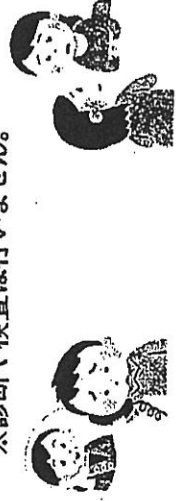
発達障害者支援センターは全国に99カ所あります  
(令和2年4月時点)

## 相談支援

【相談対象】 発達障害のある方やその可能性のある方、ご家族  
関係機関の方

【相談方法】 電話相談、来所相談（予約制）

※診断や検査は行いません。



例えば・・・このような相談が多く寄せられています。

- ・ご本人/ご家族が発達障害かもしれない。
- ・発達障害の診断を受けたが、どんな支援が受けられるか知りたい。
- ・家庭での関わり方や学校との連携について相談したい。
- ・病院受診について相談したい。
- ・就職をする準備を考えたい。
- ・働き続けるために特性への工夫を相談したい。



### 未診断の方からの相談がおよそ半数以上

- ・発達障害者支援センターの相談支援とは



ご本人/ご家族などの課題や状況を整理し、どう捉えていけばいいのかを一緒に考える相談

### 当事者のエピソード

家族や学校の理解があって育むことができた例

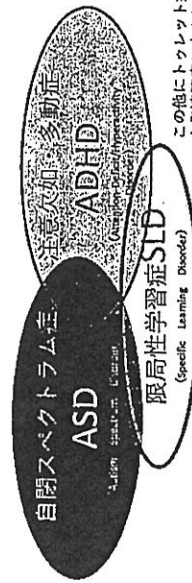
### 大人へのステージを見据えた育み

- ① 肯定的な自己理解を育むこと
  - ・認めてくれる仲間、支えてくれる大人
  - ・安心できる人間関係
- ② 自己効力感を育むこと
  - ・失敗しても大丈夫、何とかかなる経験
  - ・相談による問題解決の経験
- ③ ストレスにうまく対処する力を育むこと
  - ・自分なりの気分転換と癒し
  - ・共に過ごせる仲間の存在

発達特性によっては自然にコツを覚えることが難しい、適切なやり方がわからない場合もある・・・

## 発達障害の原因は？

- ・生まれつきの脳の中枢神経系が原因
- ・脳のタイプが違う(物の捉え方、見え方や感じ方が違う)



9

## 自閉スペクトラム症 (ASD)

- ・社会コミュニケーション能力の偏り
- ・こだわりの強さ
- ・感覚の特異的な特徴(過敏や鈍麻など)

得意: ひらめきがある、芸術分野で才能発揮、記憶力に優れている  
ひとつのことを極める

苦手: 同時に複数のことができない、状況が読めない、予定外のことに混乱する、比喩表現が苦手

11

## 発達障害特性について

見え方、聞こえ方、触覚の特徴

10

## 当事者のエピソード

記憶が優れていることによる大変さ

12

### 注意欠如多動症 (ADHD)

- ・不注意 (集中力が続かず、すぐに気が散る)
- ・多動性-衝動性 (落ち着きがなく、周囲の刺激に反応しやすい)  
(結果を考えないままに行動してしまう)

得意:好きなことには集中力を発揮する、行動力がある、頭の回転が速い、感情表現が豊かなりやすい、整理整頓が苦手

13

### 発達障害へのアプローチ

- ・特性を理解し、強みを活かす&苦手をカバーする。
- ・「適応」を目標に本人が活動しやすい工夫や配慮をする。



15

### 限局性学習症 (SLD)

- ・知的な能力には発達の遅れが見られないが、読み書きや計算等、一部の学習能力が育ちににくく、著しい困難さがある

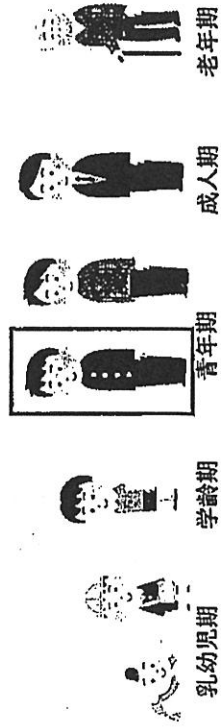
例) 話ではできるのに、文章の読み間違えが著しく多い。文字は読めても著しく遅い、正しく書けない 著しく計算が苦手 など

14

### 辿ってきた道とこれから進みたい道

- ・苦手だけでなく、本人の強みや周囲のプラス面も把握していく。
- ・本人の気持ちや強みを上げながら支援していく。

自己表明「～があれば～」を他者へ伝えられるように



16



### 自閉スペクトラム症の基本支援

- ・視覚的な提示をすする。(見通しやスケジュール等)
- ・ポイントを示し、整理する。
- ・具体的に、簡潔に伝える。
- ・環境を調整する。
- ・状況を理解できるようにサポートする。

17

### 限局性学習症の基本支援

- ・なまけていと決めつけない。
- ・苦手なパターンを知る。
- ・教材の工夫を試みる。(計算機、読み上げソフト等ICTの活用)
- ・小さな目標をクリアしたら、必ず褒め、達成感を持たせる。
- ・強みでカバーできるかを評価する。

18

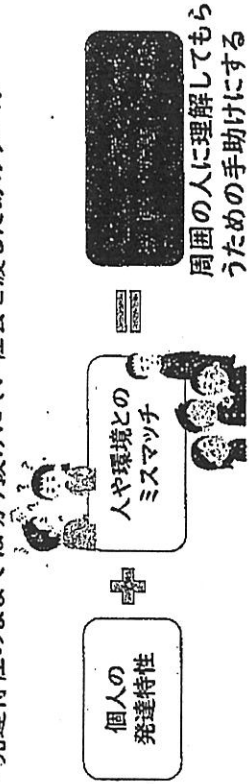
### 注意欠如多動症の基本支援

- ・感情的に叱らず、理由を説明する。
- ・できそうなことから少しずつ取り組ませる。(スモールステップ)
- ・思い出して行動できるような仕組みをつくる。(チェックリスト、貼り紙等)
- ・できたことは、すぐに褒める。
- ・予定通りにこなしたり、守ったりする経験を積ませる。(社会の枠組みを意識した行動)

15

### 診断は支援のツール

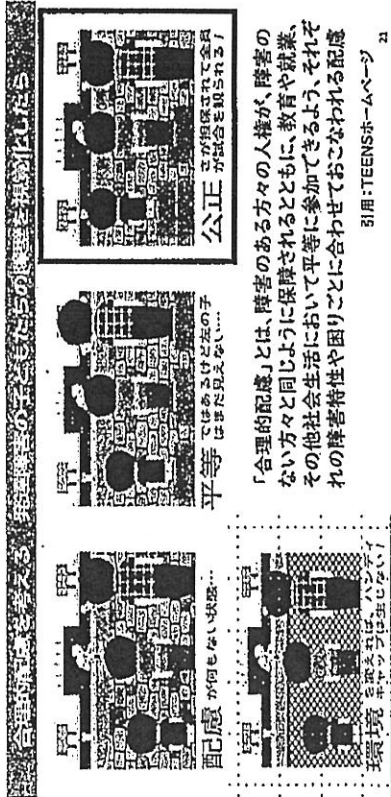
- ・診断は合理的配慮を求め、できることを増やすためのツール
- ・発達特性のままでは切り抜けにくい社会を渡るためのツール



20



## 合理的配慮がある環境で「できる」を「伸ばす」



21

## 医療機関を受診する場合

- ご本人に受診の同意があること
- 母子手帳や通知表、現在までの経過がわかるよう生育状況をメモなどにまとめて伝えると情報が伝わりやすい。
- どの年代でどのような困難さがあったかなど、家族の同伴や関係機関がある場合はそこからの情報提供も合わせると総合的な判断につながる。
- 秋田県内の発達障害を診ていただいた医療機関をホームページに掲載しています。 <https://www.aic.ac.jp/fudai/teisyu/fc150a.html> のフレット・ハンドブック>掲載ページ

23

## 発達障害と障害者手帳について

- 知的な遅れのない発達障害の方が申請できる手帳は、「精神障害者保健福祉手帳」
- 
- ・ 受診歴がない場合は初診～交付まで約8カ月程度
  - ・ 手帳の等級は1～3級、2年毎に更新が必要

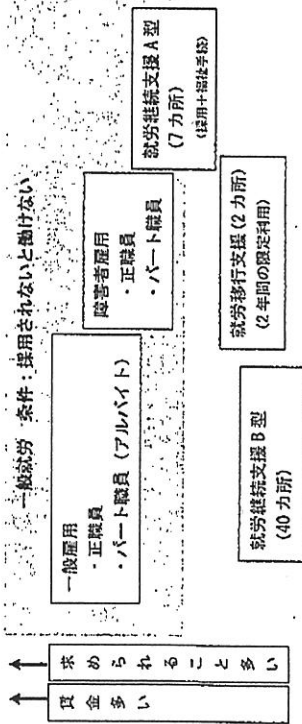
24

## 社会に出て働くときの支援

TEENS HOME PAGE

22

### 働き方の全体図



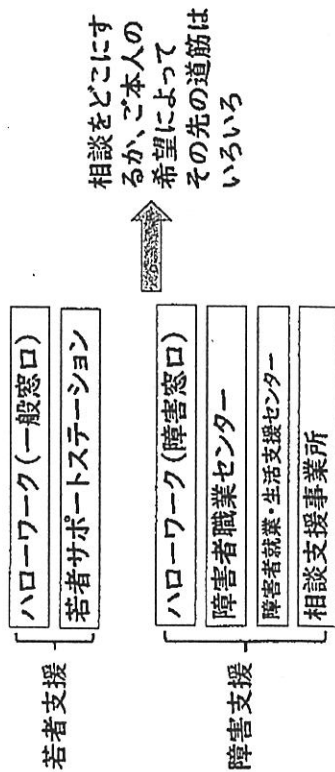
↑ 求められることが多い  
↑ 賃金が多い

福祉就労 条件：本人の希望、福祉手続き・契約  
参考：秋田市 障がい者のためのくらしのおしり(令和2年7月)

### 若者サポートステーション

- ・地域若者サポートステーションとは、働きたい若者を次のステージに上げる支援をしている機関(15歳~49歳を対象)
- ・県内にはあきた若者サポートステーション(秋田市)、秋田県南若者サポートステーションよこて(横手市)の2カ所となっている。

### 働き方に応じた相談窓口

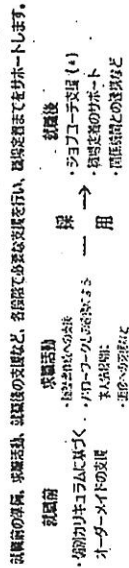


相談をどこにするか、ご本人の希望によってその先の道筋はいろいろ

### 秋田障害者職業センター

- ・全国の各都道府県に最低1カ所ずつ設置
- ・障害のある方へ専門的な職業リハビリテーションを提供する
- ・職業評価、職業準備支援、ジョブコーチ支援、リワーク支援

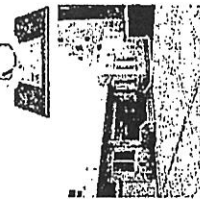
#### 就労前後の一例



就労前の準備、求職活動、就職後の支援など、各段階で必要な支援を行い、就労定着までをサポートします。

引用：秋田障害者職業センターホームページ

働くときの苦手や得意について知りたい。どんな作業が適しているかな。



## ハローワークでの雇用支援

- ・県内各地のハローワーク（公共職業安定所）
- ・障害者専用求人、障害者専用面接会（きらめき面接会）
- ・令和3年6月、ハローワーク秋田「発達障害者トータルサポーター」配置

診断はあるけど、どんな働き先があるのかな。一般求人と障害者求人について知りたいな。



ハローワークは人がいっぱい。どの窓口で相談したらいいか不安だな。



29

## 相談支援事業所または障害者基幹相談支援センター

- ・障害のある方の困り事全般について相談できる。
- ・障害者総合支援法の福祉サービスを利用する際に、サービス等利用計画の作成相談ができる。
- ・設置場所については各市町村の障害窓口へご相談ください。



就労継続支援B型事業所を利用して働く習慣を身につけたい。どんな作業があるのかな。

31

## 障害者就業・生活支援センター

- ・県内8カ所圏域ごとに設置
- ・障害のある方の就労と生活を継続的に一体的に支援する
- ・県内の障害者就業・生活支援センターについての情報  
秋田県公式ホームページ>障害者の方へ>障害者就業・生活支援センター  
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/3828>

働く準備から採用決定後も相談できるところがあるといいな。



仕事が決まってきたので一人暮らしがしたい。仕事をしながら生活の相談がしたい。



30

## 発達障害の情報へつながる

以下のサイトで発達障害に関する情報をご覧ください。是非、ご活用ください。

- ・国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害情報・支援センター  
<http://www.rehab.go.jp/ddis/>
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 発達障害教育推進センター  
<https://cpedd.nise.go.jp/>

32

## 教職5年目研修を振り返って

養護教諭 佐々木 友里亜

### 1 研修について

(1) 研修名：A—14 教職5年目研修講座（養護教諭）Ⅰ、Ⅱ

(2) 日時：令和3年5月18日（火）、11月30日（火）

(3) 場所：秋田県総合教育センター、秋田赤十字病院

(4) 日程：Ⅰ 令和3年5月18日（火）

10:00～10:10 挨拶

秋田県総合教育センター 主幹 小玉 克男 氏

10:10～12:00 <講義・演習>

「教師が使えるカウンセリングの技法」

秋田県総合教育センター 指導主事 鎌田 祐明 氏

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～14:30 <講義・演習>

「発達障害のある児童生徒の理解と支援」

秋田県総合教育センター 指導主事 牧野 幸枝 氏

14:40～16:15 <講義・演習>

「学校組織の一員として

～マネジメントの視点～」

秋田県総合教育センター 指導主事 小林 真人 氏

Ⅱ 令和3年11月30日（火）

9:00～12:00 <講義・演習>

「感染症の予防と対策について」

感染対策室看護師長 井上 貴子 氏

手術棟看護師長 福田 恵 氏

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～16:00 <講義・演習>

「学校における緊急時の対応について」

副院長（兼）救命救急センター長 藤田 康雄 氏

医療社会事業部社会課社長係長 竹澤 雄基 氏

## 2 感想

### (1) 教職5年目研修講座Ⅰを終えて

カウンセリング技法の講義では、経験を積んでいるほど原因を決めつけやすいため、1つの出来事に対し、2つ以上の疑問と複数の仮説を立てる習慣をつけるといいということも学んだ。複数の仮説を立てることで、相手への関わり方に余裕が生まれる。こちらの関わり方が変わるとそれが相手にも影響を及ぼし、相手の行動が変化する。変化した相手の行動を見て再度仮説を立てていく。このサイクルを繰り返すことで、より事実に近い仮説を立てられるようになり、解決への道が開けるようになると思うので、まずは経験を積むことが大事だと感じた。また、メラビアンの法則によると、言語や聴覚よりも視覚からの情報に影響を受けるようなので、言葉遣いや声の大きさのみならず、アイコンタクトや表情、話を聞く環境にも気をつけなければいけないと思った。そして、相手の話を聞く時は傾聴が大切になってくるが、忙しいと誘導してしまう傾向にある。NO BUT、YES BUT、NO ANDで聞くのではなく、YES ANDで子どもの話を受け入れることがポイントで、こちらの聞きたいことではなく、相手の言いたいことや思いをきちんと聞いてあげることが大切だと学んだ。高校の保健室では、悩み相談を受ける場面が多いため、今回学んだことを思い出して、生徒それぞれに合った対応を心がけていきたい。

発達障害のある児童生徒の理解と支援の講義では、実際にそのような生徒の気持ちを体験した上で、担任とは異なる視点から多様性を考えたり、児童生徒と担任の両方の支援者になったりと、養護教諭としての役割を生かすこと学んだ。本校でも支援を要する生徒が多く、学校として何をどこまで支援できるかが課題となっているが、今後もの確な実態把握に努め、関係職員と連携して最善の方法を探っていきたい。

最後のマネジメントに関する講義では、自校についてプレゼンテーションを行ったが、自校の学校目標を達成するために、保健室では何ができるかを改めて考えるいい機会となった。毎年保健室経営計画を作成するが、より緊急度やニーズの高い健康課題を優先するため、日頃から課題の傾向を分析できる能力を養っていきたい。

### (2) 教職5年目研修講座Ⅱを終えて

感染症に関する講義では、現在流行中の新型コロナウイルスやインフルエンザの特徴や予防策を学んだ。予防策として大きく挙げられるのが、手洗いと消毒だが、それぞれ行った場合の除去率や注意点などを改めて学んだ。感染を防止するためにゾーニングも効果的だが、病院のゾーニング状況も聞くことができた。個人防護具着用時は、ガウン、マスク、ゴーグル、手袋の順番でつけるが、脱ぐときは逆の順番で外していくということなどに気をつけているようで、学校でも真似できそうな部分は真似していききたいと思った。また、嘔吐物処理の実習も行ったが、高校では嘔吐物処理セットを使用する場面がほとんどないため、実技は大変有り難かった。いつでも対応できるように今日のことを忘れないように

したい。

心肺蘇生法の実習は、今まで何度も行ってきたが、いつどこで心肺蘇生やAEDを使用するときに来るか分からないため、繰り返し訓練することが大切だと今回も感じる事ができた。また、新型コロナウイルスの流行により、人工呼吸は省略できることになっているが、小児の心停止に対しては、人工呼吸が必要であることを知った。他にも頭部外傷や熱中症、アナフィラキシーなど様々な対処方法についても教えていただいた。最低限の知識は把握しているが、専門的な立場の方からのお話は、最新情報も含まれているため、今後もこのような研修会があった場合には積極的に参加していきたい。

### (3) 全体を通して

今年度も新型コロナウイルスは終息することなく、学校現場では様々な対応に追われている。保健室での生徒対応も、感染状況に関わらず行わなければいけない。その中でどのような関わりができるか、学校行事や授業ではどんな感染対策ができるかを考え、実践してきた。しかし、このやり方でいいのか、もっと良い方法はあるのではないかと、不安や悩みは尽きない。そんな私たちにとってこの5年目研修は大変有り難い機会であった。2日間の研修を通して、研修の内容はもちろんのこと、日頃の悩みを同じ養護教諭同士で共有することもできた。養護教諭として求められる資質は様々あるが、その資質とは何かを日々試行錯誤し、課題を解決しながら日々の執務をこなしていきたい。また、生徒のコロナ禍だからこその悩み、コロナ禍であろうと変わらない悩みにいち早く気付けるように、保健室だけにとどまらず、校内を見回って生徒の普段の様子を見たり声をかけたりして日頃の状況なども把握し、心のケアにも努めていきたい。そして変化に気付いたときには管理職や関係職員と共有し、支援体制を整えて、生徒一人一人をサポートしていきたい。

新型コロナウイルスの流行は、まだまだ治まる気配がない中、様々な情報は日々更新されていく。常にアンテナを高く張って、最新情報を収集し、その都度すばやく対応していきたい。そのためにもこのような研修の機会を逃さず、積極的に参加していきたい。

## これからの運動部活動の在り方を振り返って

国語科：教 諭 千 田 玲 央 奈

### 1 研修について

(1) 研修名：B—1 2 これからの運動部活動の在り方

(2) 日 時：令和3年5月14日（金）

(3) 場 所：秋田県総合教育センター

(4) 日 程：令和3年5月14日（金） 10：00～16：15

〈講義・協議〉 運動部活動経営の実際

〈講義〉 運動部活動指導・運営上の留意点

〈講義・実習〉 運動部活動での事故防止と応急手当

### 2 感想

運動部活動の望ましい在り方、運営上の留意点等の理解と、危機管理についての実践力を養うという目標の下、研修に臨んだ。

午前中の一つ目の講義は運動部活動経営の実際についてである。学校教育における部活動の位置づけとして部活動は学校教育の一環であるということ再認識した。また、部活動においても主体的・対話的で深い学びの実現に向けた視点は意識して指導することが大事であると理解した。さらに、本県の部活動の現状を知り、今後の部活動の在り方が非常に難しいと感じる部分が多々あった。部活動指導員という名前は知っていても実態などをよく把握していなかったため、今回の研修で知ることができて大変勉強になった。二つ目は運動部活動指導・運営上の留意点についての講義であった。とある学校のアンケートの結果から生徒も保護者も部活動がその後の人生に役立つと思っている人数はとて多いということが分かった。これは恐らく本校も含めて他校でもほぼ同じ結果になるのではないかと感じた。それだけ、部活動が人間力を向上させるために大きな影響力を与えているのだと思う。また、コロナ禍にあってもできることを工夫して実践することの大切さを学んだ。

午後の研修は運動部活動での事故防止と応急手当に関する講義であった。今回の研修の中で一番興味があった分野であったが、内容も充実していて非常に良かった。健康管理に関しては部活動に限らず配慮しなければならないことだと思った。また、コロナやプロテインに関する専門的な正しい知識を身に付けることができて、大変有意義な時間であった。応急処置や緊急時の対応なども学んだが、いずれにしろ授業と同じで生徒の状況判断を丁寧に行うことが重要であると感じた。

私はバスケットボールを続けてきて、そこからたくさん大切なことを学んできた。幸い、私は自分の専門競技である部活動の顧問なので、生徒にバスケットボールの魅力をしっかり伝えつつ、諦めず挑戦していく大切さを説いていきたいと思う。



## B講座 各教科等における言語活動の充実

商業科：教 諭 菊 地 理 香

### 1 研修について

(1) 研修名：B-1 各教科等における言語活動の充実（オンライン）

(2) 日 時：令和3年 9月 9日（木）

(3) 場 所：オンライン

(4) 日 程：令和3年 9月 9日（木） 10:00～16:15

〈講義・協議〉 言語活動を位置づけた指導の実際

〈講義・演習〉 各教科等の指導における言語活動の充実

### 2. 内容・感想

グローバル化が進み外国人などの異質集団でのコミュニケーションが仕事や社会生活を送る上で当たり前となっている中で「自分の考えを他者に伝わるように根拠を示して説明する」力が必須であり、言語活動の充実を通して育成していかなければならないということが分かった。国内外の調査から日本は前回調査と比較して「読解力」「情報活用力等」が低くなっており課題であることも分かった。

また、インターネットが完全に浸透し、昨今の新型コロナ感染症の流行が加わってこれまでの学習の仕方や社会から求められる資質・能力も転換期となっていることも理解した。

言語活動は知的活動とコミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かなところを育む上でも重要であるという。学習活動の中心となる国語科を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて生徒の言語活動を充実することが大切であり、普段の授業でレポート作成や推敲、発表といった活動を通して思考力・判断力・表現力が育まれていくという。本校のパスカルタイムでの「振り返り」や「シェアリング」も、まさしく言語活動であり生徒達は着実に3年間で成長していることから実感した。

ラーニングピラミッド理論も紹介されたが、「聞く・読む」よりも「話し合う」活動の方が、さらに「他者に教える」活動の方が定着率は高いという。授業で3年生が2年生に既習事項を教える学習活動の実践をしているが、活動を通してどう相手に伝えるかを考え表現することで、さらに理解が深まったり、表現方法が上達していったりしていくことから効果を感じている。言語活動が、単なる話し合いから目的に向かった学習活動となるためには個人→集団→個人、受信→思考→発信を意識することであるという。また、「言語活動」を「学習活動」に置き換えることで取り組みやすくなるという。生徒の実態に応じて授業の中での言語活動がさらに有効な手立てとなるように工夫していきたい。

カリキュラムマネジメントの観点から言語活動を考えることの必要性も知ることができ、目指す生徒の姿と各教科で取組としてできることが何かを考える契機とできた。

学校の教育目標や教科の目標に近づけられるように生徒の実態に寄り添いながら、言語活動が生徒の知的活動と感性を育む重要な活動であることを強く意識して取り組んでいきたい。